

授業の具体的展開例

話し合いにより気づきを高め、理解を深める展開 ～復習～

T：これまでスーパーマーケットの学習をしてきました。お客さんはどんなことを考えながら買い物をしていたでしょう。

C：安いものを選んで買う。

C：地元でとれたものを選ぶ。 など

T：今日はみんなに店長になってもらい、もし自分ならどんな作戦を立ててお客さんに喜んでもらいますか。考えましょう。

～自力での解決～

T：では発表してください。

C：安いものをおくといい。

C：新しいものをおきます。

C：営業時間を長くしたらお客さんが喜ぶと思います。

C：新鮮なものをおきます。

T：次は、グループでみんなの意見を出し合い、発表出来るようにまとめましょう。

～グループでの学習～

T：それでは、グループで考えた作戦を発表してください。

～集団でまとめる～

C：やっぱり安くしたらお客が来ると思います。

C：地元のものをおいたら安心します。

C：ちらしを配ります。

C：先生いろんな意見があっって一つにまとめられません。

T：そうですね。どれも大切な作戦で、一つにまとめることができませんね。黒板に書いてある作戦を見て何か気付くことはありませんか。

C：買う人の願いと同じだ。

C：ほんとだ。まとめた模造紙に書いてあることと同じだ。

T：そうなんだね。実は、お客さんの願いとお店の作戦は似ているんだね。つまり……地域のお店は自分たちの生活を支えているんだね。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時では、これまで調べてきたことをもとに買う人の立場になる。自分が店長になったとして、たくさんの買い物をしてもらおう工夫について考えさせる。さらに各グループからの発表を聞くことで、お客さんが喜ぶ工夫についても深く再考させることが「活用」の力を育てる工夫となっている。

少人数でのグループ学習は、発言の苦手な児童も自分の考えを発表しやすいという長所がある。表現力を高めるためにも自分の考えをたくさん出させたい。自分の考えを整理してまとめた児童は友だちに正確に伝わるように、考えがうまくまとまっていない児童には友だちの意見を聞いて自分の意見がもてるように、それぞれの立場から大切に扱う時間にする。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時は、話し合いを通して、思考を促す活動を重視している。どんな作戦がよいか考えることをきっかけにして思考させたい。また、発言の苦手な児童が表現力を伸ばすためにグループでの話し合いを取り入れた。

「活用」の力の育成の具体的な実現状況は、以下の3つが考えられる。

- ① 既習事項や調査活動したことをもとに客に買い物をしてもらおう工夫を考えることができる。
- ② 考えた作戦を、既習したことや調査活動したことをもとにして、グループの友だちに伝えることができる。
- ③ 作戦を考えることができなかつたり、グループの友だちに自分の考えを伝えられなかつたりする。

③の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。②の状態の児童においても同じグループの友だちの意見を参考に、お店の工夫の視点から付け足し等できるように支援が必要である。

板書例

CLICK

板書例は
こちらから



HOME

本時の流れへ

評価問題